

新病棟完成まで1年となりました。

病院再開発担当 井川 幹夫
病院整備推進室 浅沼 智、渡部 晃

当院では、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念として掲げて、これまで努力を重ね、社会的責任を果たしてきましたが、当院は建築後30年近く経過し、施設の老朽化のため、患者さんのニーズに応じた満足度の高い医療、療養環境を提供することができず、さらに大学病院としての使命である優れた医療人の育成と高度で先進的な医療を実践することにも支障を生じてきたため、小林病院長の指示の下、急性期医療のさらなる充実、チーム医療の推進、教育環境の向上などを目指して、病院再開発（新病棟の増設、既設病棟/外来・中央診療棟の改修）を昨年春からスタートしました。今回、新病棟完成まで1年となった節目に、新病棟を中心とした病院再開発の進捗状況についてお知らせいたします。

■新病棟建設工事の進捗について

毎朝7時半になると2台の大型クレーンが腕をのびし、その日の作業開始を告げています（図1）。その様子は出雲市街の遠くからでも確認でき、どなたでも工事場所がわかると思います。

昨年春より始まった新病棟建設工事は来年7月開院を目指して着々と進捗しています。現在、建物の骨格となるコンクリートの柱、梁、床、壁などを3週間に1フロアのペースでつくっています。6月末には7階床まで

コンクリートが打ち上がっており、10月には最上階まですべてのコンクリートが打ち終わります（住宅に例えれば「棟上げ」といったところ）。コンクリート工事が終わった1階から順次、窓やドアなど建具、空調機器など設備の取付けや造作工事を始めており、外装タイルは2階まで貼り上がり現場の外からでも確認できます。（次頁へ続く）



図1 新病等建設工事状況

平成23年
新病棟完成

看護師・助産師 大募集

（看護学生奨学金貸与を始めました。詳細は24Pに）

— 目 次 —

- ◆ 新病棟完成まで1年となりました。……………1-4P
- ◆ 平成22年度 病院医学教育研究助成配分一覧……………5-7P
- ◆ がんの温熱療法（ハイパーサーミア）装置が導入されました……………8P
- ◆ 光トポグラフィー導入……………8P
- ◆ 感染制御専門薬剤師の認定……………9P
- ◆ 地域医療支援学講座の設置にあたって……………9P
- ◆ 緊急カードをつけました。また10床になりました。……………10P
- ◆ 新たな初期卒後臨床研修プログラム……………11P
- ◆ ハイチ大地震災害救助活動に対する感謝状の贈呈について……………11P
- ◆ 大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成（大学病院連携型高度医療人養成推進事業）4大学プログラムについて……………12P
- ◆ いよいよ禰創対策リンクナース会が活動を開始します……………12P
- ◆ 内視鏡洗浄履歴について……………13P
- ◆ 看護部教育専任スタッフルームの紹介……………14P
- ◆ ワークライフバランス支援室の発足について……………14P
- ◆ クリティカルパスシリーズ～ガイドラインに基づいた静脈血栓塞栓症予防策と泌尿器科経尿道的手術の連動クリティカルパスの運用について……………15P
- ◆ 日本医療マネジメント学会島根支部第9回学術集会を大社町で開催します（ご案内と参加の募集）……………16P
- ◆ 患者支援の取り組みシリーズ～前立腺いやしの会～……………17P
- ◆ 日本臨床衛生検査技師会のお褒め状を受賞……………18P
- ◆ 平成22年度全国医学部長・病院長会議中国・四国ブロック会議を開催……………18P
- ◆ 第4回島根大学医学部附属病院医療連携会議を開催……………19P
- ◆ 医学部キャンパスにおいて防災訓練を実施……………19P
- ◆ ボランティア活動について……………20-21P
- ◆ その他のイベントの報告……………21-22P
- ◆ 病院運営委員会の報告……………22P
- ◆ 癒しのコーナー……………22P
- ◆ 研修会・講演会・学会等のお知らせ……………23P
- ◆ 看護師・助産師大募集……………24P

外部仕上工事が完了する12月に外部足場を解体する予定ですので、建物外観をお見せすることができると思います。以前に「しろうさぎ」でお示したイメージ（図2）どおりにできるのか今から楽しみです。

足場が外れると道路など外構工事にとりかかり、4月には西門から新病棟・既設病棟南側・南橋まで通行できる予定です。来年1月から医療機器などの搬入取り分けも始まり、3月末にはほとんどの工事が完成します。その後、建築確認や消防設備、医療法上の設備検査を受け、6月に開院記念式典、病院見学会、医療機器の移転、入院患者さんの移送を行った後、新病棟の開院を迎えます。

開院までちょうど1年となりましたが、今後とも安全に気をつけて工事を進めてまいりますので、ご協力よろしくお願いいたします。



図2 新病棟完成イメージ

■ 新病棟のフロア構成について

急性期医療の充実、がん医療の推進が可能で、また快適な療養環境を確保したフロア構成で（図3）、病床は基本的に共通病床として運用する予定です。各フロアの概要を説明しますと、1階に救急部を移設・拡充し、新たにCTを設置して救急医療の充実を図ります。2階はICUを20床に増床し、HCUを10床新設します。またME機器の中央管理のためのMEセンターを配置します。3階の手術部は、高度手術に対応するため手術室の面積を十分確保するとともに、手術室数を10室に増やして手術件数の増加、超緊急手術に備え、また日帰り手術用の回復室など諸室を配置します。4階は手術部の機械設備、医療情報関連のサーバー室が設置されます。5階の緩和ケア病棟は症状コントロール、療養の支援に必要な環境を提供できる個室21床、ラウンジなどで構成され、南側には患者さんが自由に散策できる庭園が整備されます。6階の小児センターには、一般病室の他、NICU、無菌病室、感染病室、リカバリー病室、院内学級、プレイルームなどで構成され、内装も小児に合わせたものになります。7階のMCU(mid care unit)という呼称は、HCUと一般病棟の中間的なケアを行うユニットを意味するもので、恐らく当院が初めて使用するものと思います。4床室が3室（12床）、個室が20床、このうち感染病室に4床配置されています。入室対象は、ICU、HCU退室後、中等度の手術後あるいは処置後の患者さん、呼吸器管理下の患者さん、救急部受診後に経過観察が必要な患者さんなどです。8階は造血器の悪性

腫瘍、固形癌に対して化学療法を中心とした集学的治療を行う腫瘍センターのフロアで、南側のフロアでは空気清浄度がクラス100の個室、クラス10000の個室と4床室を設置しています。特にクラス10000の病室では廊下、食堂も含めてエリア全体が同じ空気清浄度で管理されていますので、入室患者さんの行動範囲も広がります。9階の北側に女性専用個室病棟を配置し、女性専用アメニティールームを設置するなど、女性のプライバシー確保を十分考慮したものとなっています。南側は個室専用フロアで、特別室も設置します。

9F	女性・個室病棟	24床
8F	腫瘍センター	37床
7F	MCU (mid care unit)	32床
6F	小児センター	39床
5F	緩和ケア病棟	21床
4F	設備階	
3F	手術部	
2F	ICU・HCU、MEセンター	30床
1F	救急部、薬剤部、材料部	

図3 新病棟フロア

次に5-9階のスタッフステーションについて説明します。スタッフステーションはライトコートに取り囲まれ、四方から自然光が降り注ぐ明るいスペースとなります。図4に示しますように、スタッフステーション内の機能性を高めるため、A「記録・入力エリア」、B「作

業エリア」、C「ミーティングエリア」の三つのエリアに分けています。また、南北の廊下からの出入りや通り抜け動線を考慮したレイアウトとなっています。廊下に面した部分にはパーテーションを設置し、廊下からの視線に配慮しています(図5)。

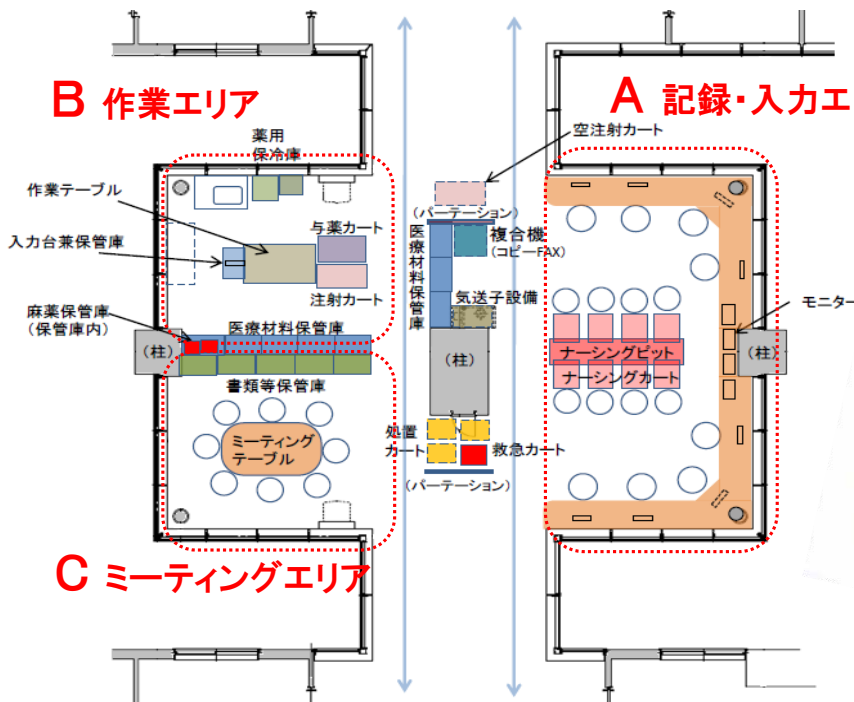


図4 スタッフステーションのレイアウト



図5 スタッフステーションイメージ図

■運用検討組織について

昨年より、病院再開発に関連して、病院業務、運用などを検討する組織、病院再開発運用検討ワーキンググループ(以下「運用検討WG」)を発足させ(図6)、現在まで主に新病棟に関する検討を行ってきました。今後は、既存病院部分の改修中・改修後の運用についても検討を進める予定としています。

運用検討WGの各作業部会への主な検討内容については以下の通りです。

・ベッドコントロール作業部会

新病棟は共通病床が多いため、入院患者さんの受け入れが円滑に行われるように共通病床の運用方法、ルール等の検討を行っています。最終的にはベッドコントロールのポケットマニュアルを作成する計画としています。

・病棟運用作業部会

病棟の入院患者想定、共通病床の運用方法、諸室の使用法、患者さん・病院スタッフ等の動線計画、スタッフステーション機能の検討、食堂、ディールームなどのアメニティ関係の運用体制等について「病棟機能」、「患者関連」、「スタッフ関連」の分科会で検討し、作業部会で全体の整合性について検討を行っています。

・外来運用作業部会

外来・中診棟改修中・改修後の診療体制・患者動線、外来受付機能、患者呼び出し改善策等についての検討を行なっています。

・医療安全・感染対策作業部会

病院改修期間および改修後の医療安全・感染対策等について検討を行なっています。

・患者給食作業部会

既存病棟改修時に厨房の改修も行われるため、改修時における給食の供給方法等を中心に検討を行っています。

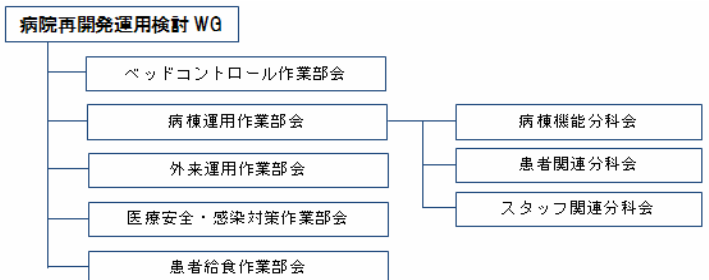


図6 病院再開発運用検討WG組織図

■ 移転に関する検討組織について(図7)

病棟・外来中央診療棟の移転計画については、基本計画を検討するための「病棟移転プロジェクトチーム」、「外来移転プロジェクトチーム」が組織されて

います。また移転の実施に関しては、「病棟移転実施WG」、「外来移転実施WG」が組織され今後検討が進められます。

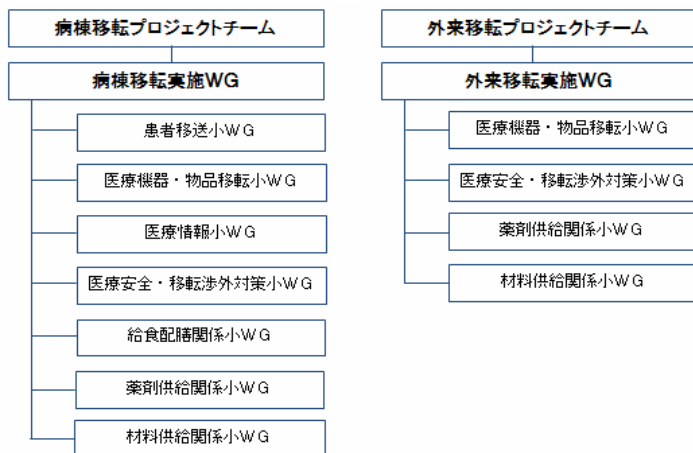


図7 移転に関する検討・実施組織図

■ 病院再開発全体スケジュール(予定)

来年6月新病棟竣工、7月に稼働開始後に既存病棟、外来・中央診療棟の改修が始まり、平成24年度末には教育環境も大幅に向上し、優れた地域医療人の育成、高度で先進的な医療の開発と実践、快適な療養環境の提供が可能となる病院になります。

既存病棟改修期間中の稼働病床数は、西病棟改修中(図8 ←部分)が約2割減、東病棟改修中(図8 →部分)が約3割減となる見込みです。現在、可能な限り稼働病床を確保できるよう改修工程等について検討を

行っています。病院再開発事業に係る費用は、その大部分が借入ですので、今後、病院収入を確保し、償還してゆく必要があります。また、地域での安定した入院患者の受入を行い大学病院としての使命を果たすため、「**在院日数の短縮**」を図ることが必須となります。

今後、改修工事に伴う制約からご不便をおかけすることが多いと思いますが、病院再開発に対しご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

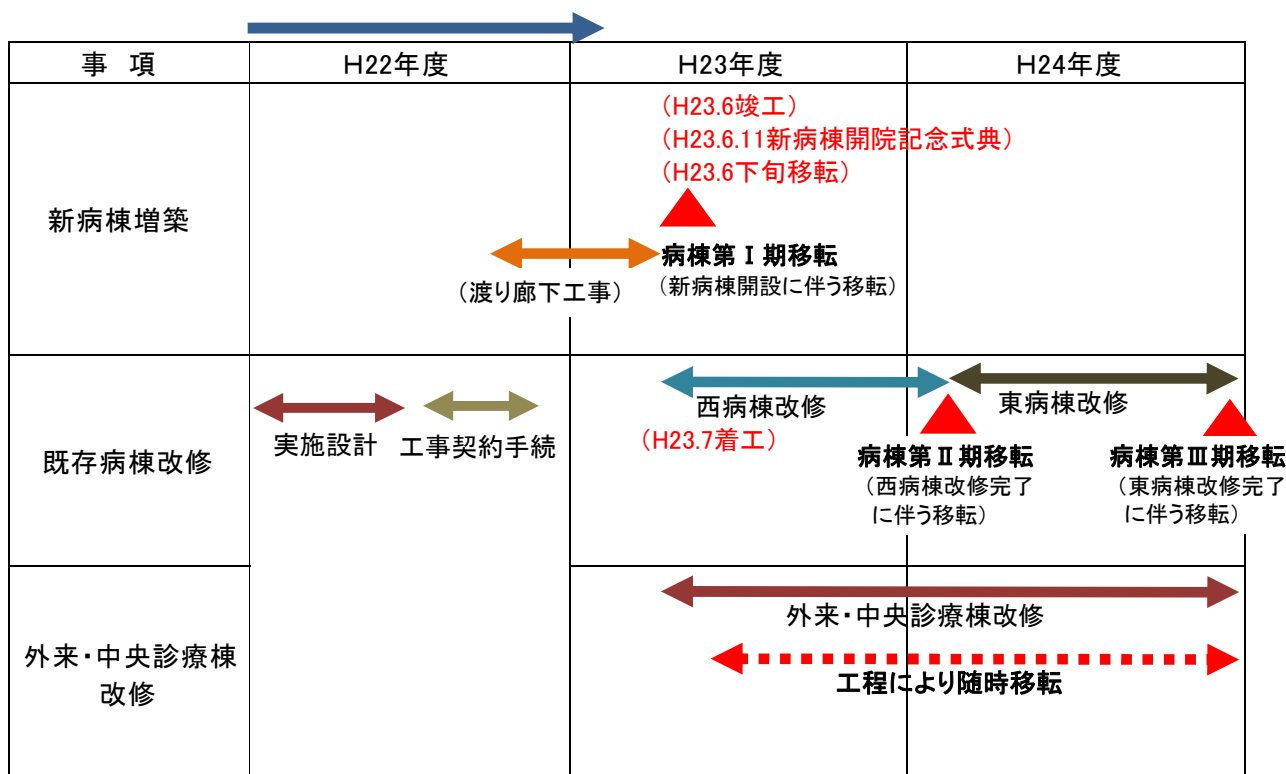


図8 病院再開発スケジュールの概略

平成22年度 病院医学教育研究助成配分一覧

病院長 小林 祥泰

病院医学教育研究費を設置して6年目となり、病院の医療安全や患者サービスにつながるユニークな研究が行われ成果が上がっています。節水コマ研究では水道代の大幅節減が実現しEMSで高く評価されました。コメディカルのキャリアアップでも多くの成果があり各分野で活躍して貰っています。病院医学教育センターも2年目となり廣瀬昌博センター長のリードで研修システムの統合化も進んでいます。今年度は応募が研究50件、研修95件ありました。審査の結果下記のように決定しました。本研究費の目的である医療安全、サービス向上、キャリアアップなどに大いに活用して頂きたいと思います。

研究費部門

研究題名	配分額 (千円)	研究組織の名称	研究責任者
事前要望書の広報に関する研究	300	終末期医療ワーキンググループ	山口 清次
倫理委員会データベースシステムの開発及び更新	500	医学部医の倫理委員会	小林 祥泰
本院における研修プログラムに関する統合システムの開発 2	700	病院医学教育センターおよび医療情報部	廣瀬 昌博
脱臭機および炭による脱臭効果の比較検討	40	病室環境研究会	小林 祥泰 秦 美恵子
緩和ケアセンター: 広報ビデオ作成	300	緩和ケアセンター	齊藤 洋司
外来迅速検査加算自動転送システムの構築	1,680	検査部専門部会, 医療サービス課	柴田 宏
本院の病院経営に資するインシデントレポートの解析に関する研究 2-インシデント・アクシデントによる(転倒・転落)による損失医療費の算出-	200	医療安全管理室, リスクマネジャー会議および医療サービス課	三原 美津江
新人看護師の職場適応のための卒後臨床研修プログラムに関する研究	270	看護部 看護管理室(教育専任)	田中 真美
本院の病院経営に資する抗菌薬の使用状況と医療費に関する研究 2-ICT 介入による MRSA 発生と抗 MRSA 薬使用状況の関連性に関する医療経済学的検証-	800	病院医学教育センターおよび感染対策室	廣瀬 昌博
広域抗菌薬の適正使用推進のための PK-PD 理論に基づいた投与計画立案への介入およびその効果に関する研究		抗感染薬適正使用推進チーム(感染対策室)	西村 信弘
MRSA 感染を対象とした、より効果的な院内感染対策の構築		検査部 感染対策室	森山 英彦
光ファイバ圧センサを用いた放射線治療時の呼吸モニタリング・同期システムの開発	700	放射線治療科	内田 伸恵
高額医療費制度の現状と対策-分子標的治療薬などの新薬をいかに適正に使用するか-	270	呼吸器・化学療法内科	磯部 威
退院支援システムの周知と在院日数の短縮	1,000	退院支援改善チーム	稲垣 文子
研修医のストレス度の多面的調査	100	卒後臨床研修センター	石橋 豊
FISH 法を用いた尿細胞診検体における尿路上皮癌細胞の検出について	914	病理(FISH) 研究部	原田 祐治
院内感染・業務改善対策研究(蓄尿を行わない血中物質測定による推算 GFR 値の実用性の検討)	176	泌尿器科	井川 幹夫
医療安全管理および病院感染対策に関する国際共同研究	200	病院医学教育センター	廣瀬 昌博
ATP 測定法による手指衛生の評価と効果	220	感染対策室	坂根 圭子
患者説明用検査結果プリントアウトのフォーマット変更	400	検査部専門部会, 医療サービス課	柴田 宏
エイコサペンタエン酸(EPA)含有魚アラだし味噌汁の食道がん、頭頸部がん患者に対する栄養学的効果	280	食事・栄養治療支援対策チーム(臨床栄養部)	川口 美喜子
職員の健康管理システム改善とリスクアセスメントに関する研究	1,570	医学部附属病院安全衛生委員会	塩飽 邦憲
環境に配慮した医療サービスのあり方に関する研究	750	EMS 対応委員会	塩飽 邦憲
褥創対策研究(陰圧創傷治療の検証)	300	褥創対策委員会	森田 栄伸
救急部医師獲得大作戦に関する研究	300	救急部人材発掘プロジェクトチーム	橋口 尚幸
“フィッシュ哲学”導入によるイキイキ楽しい職場づくり-概念の理解と定着に向けた取り組み-	150	看護部倫理委員会(看護部)	神田 真理子
附属病院研修医増加プロジェクト~病院を基盤とした卒前卒後の一貫した教育・研修支援プログラム~	800	キャリア形成支援部門	熊倉 俊一
病棟での転倒・転落の防止に対する取り組み-室内排気環境整備に着目して-	280	病室内転倒・転落防止検討チーム(リハビリテーション部)	今岡 圭
外来、病棟、手術部が連携した手術を受ける子どもへのプレパレーションに関する研究	270	手術を受ける子どもへのプレパレーション検討チーム(看護学科・看護部・小児外科)	矢田 昭子
災害に強い医療人の育成と、住民の健康被害を最小限化する地域連携システム構築の研究	300	島根災害医療対策研究会	橋口 尚幸
計	13,770		

研修費部門

研究題名	配分額 (千円)	研究組織の名称	研究責任者
がん診療連携拠点病院緩和ケアチーム研修会	140	緩和ケアセンター	齊藤 洋司
看護学教育指導者研修の受講	400	看護部(看護管理室)	秦 美恵子
「不妊症看護認定看護師」資格取得のための教育に係る奨学金	1,000	看護部(看護管理室)	秦 美恵子
「がん化学療法看護認定看護師」取得のための教育に係る奨学金	1,000	看護部(看護管理室)	秦 美恵子
「緩和ケア認定看護師」資格取得のための教育に係る奨学金	1,000	看護部(看護管理室)	秦 美恵子
災害派遣医療チーム(DMAT)研修(厚生労働省)	347	災害対策ワーキンググループ	内尾 祐司
院内がん登録中級者実務研修会参加	120	院内がん登録委員会(腫瘍センター)	鈴宮 淳司
医療安全管理の質向上を目的とした“医療安全管理”に関する講習会および研修会への参加	220	医療安全管理室およびリスクマネージャー会議	山口 清次
病院感染対策の質向上を目的とした“ICD(infection Control Doctor)”および“ICP(infection Control Practitioner)”資格取得のための講習会参加	240	感染対策室および ICT(感染対策チーム)	山口 清次
地域がん登録事業会議参加	80	腫瘍センター	鈴宮 淳司
地域がん登録実務者講習会参加	80	腫瘍センター	鈴宮 淳司
院内がん登録初級者研修会参加	60	院内がん登録委員会	鈴宮 淳司
日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団主催の MSW スキルアップ研修セミナー受講旅費	47	医療サービス課	廣兼 利江子
平成 22 年度第 43 回細胞検査士資格認定試験の受験と申請	127	病理部	長崎 雅幸
国立がんセンター主催のがん相談員研修受講旅費(都道府県がん診療連携拠点病院の指定の必須要件である研修受講済み相談員の配置によるがん相談体制の整備充実のため)	185	医療サービス課	田村 和彦
KYT 研修参加と山陰リスクマネジメント研究参加	57	医療安全管理室	三原 美津江
医師等の業務の一部を代行することのできる高度な医療秘書能力を備えた職員を養成するため、医療秘書資格認定試験の受験に必要な研修用テキストの購入	68	医療サービス課	田村 和彦
NICU 看護師の看護実践力向上のための院外研修	298	NICU(看護部)	秦 美恵子
認定インフェクションコントロールドクター(ICD)取得のための講習会受講	75	検査部	柴田 宏
日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院共催 二級臨床検査士資格認定試験	152	検査部	上垣 真由子
日本静脈経腸栄養学会教育セミナー参加	300	NST 専門臨床検査技師検査部	陶山 洋二
日本静脈経腸栄養学会・日本病態栄養学会認定の栄養サポートチーム専門療法士資格認定のための学会および講習会参加		島根大学医学部附属病院 NST	足立 経一
ICU・CCU 看護教育セミナー(中級コース)の受講による、ICU 看護師教育の強化	110	看護部(集中治療部)	矢田 リエ子
ICU・CCU 看護教育セミナー(初級コース)の受講による、ICU 看護師教育の強化		看護部(集中治療部)	矢田 リエ子
認定治験コーディネーター養成のための研修	398	治験管理センター	川内 秀之
院内クリニカルパス大会の開催	115	クリニカルパス委員会	石橋 豊
栄養サポートチーム(NST) 合宿	150	栄養サポートチーム	足立 経一
透析液安全管理のための研修補助	57	透析液安全管理責任者資格取得(MEセンター)	矢野 誠司
第 30 回日本医療社会事業学会発表「放射線治療に特化したがん専門相談員の現状と課題」	68	医療サービス課	槇原 貴子
3 学会合同呼吸療法認定士 資格取得の為の研修補助	254	リハビリテーション部	伊藤 郁子
感染制御認定臨床微生物検査技師の資格申請に必要な点数の取得。(院内感染対策、抗菌薬適正使用、病院内環境衛生管理、各種サーベイランス手法)	40	検査部	森山 英彦
静脈穿刺シミュレータを使用した医療安全研修	750	クリニカルアップセンター、医療安全管理室 看護管理室	狩野 賢二
がん専門薬剤師育成のための集中講座受講	101	薬剤部	直良 浩司
NICU 入院児へのソーシャルワーク研修に参加	49	医療サービス課	槇原 貴子

研究題名	配分額 (千円)	研究組織の名称	研究責任者
体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加(体外循環技術医学会教育セミナー3年次)	160	体外循環技術認定士取得(MEセンター)	矢野 誠司
体外循環技術認定士取得のためのセミナー参加(日本人工臓器学会教育セミナー)		体外循環技術認定士取得(MEセンター)	矢野 誠司
ME 機器メンテナンスライセンス取得のための研修補助	132	ME 機器メンテナンスライセンス取得(MEセンター)	矢野 誠司
人工呼吸器管理のための研修補助		ME 機器メンテナンスライセンス取得(MEセンター)	矢野 誠司
上級磁気共鳴(MR)専門技術者認定のためのセミナー参加	55	放射線医学講座	内田 幸司
退院支援専門ソーシャルワーク研修	88	医療サービス課、地域医療連携センター	春日 みゆき
日本緩和医療学会学術大会及び日本死の臨床研究会年次大会の学会発表	107	医療サービス課、地域医療連携センター	太田 桂子
認知症上級ケア専門士資格認定試験および資格取得のための研修会への参加	160	認知症ケアグループ(リハビリテーション部)	家田 雄
認定作業療法士 取得の為の研修補助(2年目)	230	リハビリテーション部	森脇 繁登
日本糖尿病療養指導士認定機構主催の認定更新者用講習会出席	82	検査部	竹内 志津枝
睡眠医療認定検査技師取得のための日本睡眠学会第35回定期学術集会への出席	80	検査部	宇野 誓子
認定輸血検査技師更新のための講座受講	80	輸血部	三島 清司
認定心理士資格の取得	40	放射線部	矢田 伸広
細胞検査士資格更のための第59回細胞検査士教育セミナーへの参加	78	病理部	足立 絵里加
第47回日本臨床神経生理学会技術講習会、第40回日本臨床神経生理学会学術大会教育プログラムへの出席	33	検査部 生理機能検査室	勝部 瑞徳
視能訓練士実習施設指導者等養成講習会	100	眼科	大平 明弘
検診マンモグラフィ撮影認定技師資格 ランクアップ試験受験	153	放射線部	小玉 紗弥香
資格取得のための研修「検診マンモグラフィ撮影認定技師」:平成22年度乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会(熊本会場)		放射線部	橋本 知都
検診マンモグラフィ撮影認定技師 資格更新講習会受講及び更新試験受験		放射線部	石井 美枝
臨床工学技士資格取得等に関する研修補助 ペースメーカー関連業務習得セミナー第1期	150	臨床工学技士技術研修(MEセンター)	矢野 誠司
臨床工学技士資格取得等に関する研修補助 人工呼吸器講習会(AVEA)		臨床工学技士技術研修(MEセンター)	矢野 誠司
院内糖尿病治療のレベルアップを目指した日本糖尿病療養指導士資格認定と島根県糖尿病指導療養指導士認定資格および認定士資格更新のための研修会、学会参加に関わる援助	300	院内糖尿病療養指導士の会 院内糖尿病回診チーム	山本 昌弘
日本糖尿病療養指導士認定機構主催の認定更新のための研修会への参加		検査部	庄野 智子
精神疾患を持つ患者の退院支援促進に関する研修	150	(仮)精神科退院支援促進チーム	堀口 淳
医療リンパドレナージセラピスト(リンパ浮腫治療セラピスト)講習会(中級、初級)	570	看護部	今岡 恵美
日本語聴覚士協会 生涯学習プログラム講座履修	80	リハビリテーション部	米原 希実
リハビリテーションスタッフの吸引実現に対しての実技研修会への参加	60	リハビリテーションスタッフの吸引業務推進班	道端 ゆう子
認定総合監理検査技師取得のための研修会参加	61	検査部	柴田 宏
第58回日本輸血・細胞治療学会参加、I&A 認定委員会会議出席	38	I&A認定委員会	陶山 洋二
スタンフォード大学派遣事業への参加	244	スタンフォード大学短期派遣(放射線部)	宮原 善徳
計	11,319		



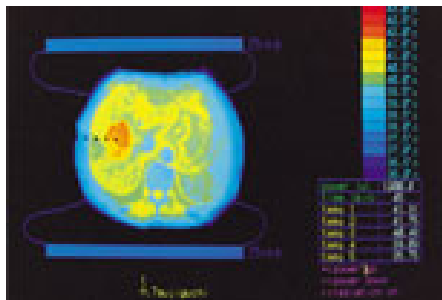
がんの温熱療法(ハイパーサーミア)装置が導入されました

放射線治療科 川口 篤哉、内田 伸恵

この度、当院に最新の温熱療法(ハイパーサーミア)装置が導入されましたので、ご紹介申し上げます。



温熱療法装置



温度シミュレーション画面

温熱療法の原理

細胞は42度以上の熱で死滅しますが、がん細胞は正常の細胞よりも熱に弱い性質があります。がん病巣の環境は、微小血管が少なく血流による放熱作用が小さく温度が下がりにくい、酸素不足で酸性の環境であるなど、がん細胞が熱で死滅しやすい状態にあります。

加温方法

大きな2つの円板状の電極で体を挟み、電磁波でがん病巣やその近傍を加温する局所温熱療法です。がん病巣を42~43℃になるよう、45~60分間加温します。毎日治療をするとがん細胞が熱に強くなり、治療効果が低下しますので、週に1~2回程度治療するのが一般的です。

副作用

重篤な副作用はありません。稀に加温した部位のやけど、痛み、頻脈や体温上昇が出現することがありますが、軽症で一過性です。

併用療法への影響

放射線や多くの抗癌剤との併用効果が認められています。

保険適応

がんの種類を問わず適応があります。

具体的な治療法

温熱療法が、がん治療の第一選択となる状況は限られており、現時点では通常の治療法では治すことが難しい局所進行がんや、再発がんの治療法の補助療法の一つと考えております。

温熱療法(ハイパーサーミア)の詳細は放射線治療科(0853-20-2002)までお問い合わせ下さい。

光トポグラフィー導入

神経内科 小野田 慶一、山口 修平

平成22年5月、本医学部付属病院に光トポグラフィー装置(株式会社日立メディコ製、ETG-4000)が導入されました。別名NIRS(Near-Infrared Spectroscopy:近赤外線分光法)とも呼ばれています。この装置は人体に対する透過性の高い近赤外光を使用して、大脳皮質表面付近の血液量変化を計測することができます。脳のある領域が活動をすると、それに伴って血液量が増大しますが、その血液中のヘモグロビンによる近赤外光の散乱を利用して、酸化および還元ヘモグロビンの変化を求めるものです。これによって、脳の活動を観察することができます。光トポグラフィーは比較的装置が小さく移動が可能であり、測定場所を選ばないという利点があることから、臨床場面においても利用されています。言語優位半球の同定とてんかん焦点計測には保険点数がつきます。また、先進医療としてうつ症状の鑑別診断補助にも用いられています。これ

らに限らず、リハビリテーションや小児科の領域においても利用が広がり、今後さらに適用分野は拡大していく見込みです。本学においても臨床と研究に多大な寄与が期待されます。



感染制御専門薬剤師の認定

薬剤部 直良 浩司

平成22年度の診療報酬改定で感染防止対策加算が100点に改訂され、当院は施設基準に関わる届出により4月1日より算定可能となりました。その施設基準には「感染対策チームが広域抗生剤等（カルバペネム、バンコマイシン等）の使用を管理していること」および「3年以上の病院勤務経験をもつ専任の薬剤師が配置されていること」という薬剤師に関わる項目が含まれています。このように感染対策に関わる臨床薬剤師は、チームの中で医師、看護師、臨床検査技師と協力し、感染制御に関する専門的知識を基に、感染制御を通して患者さんが安心・安全で適切な治療を受けるために必要な環境の提供に貢献するとともに、感染症治療に関わる薬物療法の適切かつ安全な遂行に寄与することが求められます。

このような臨床薬剤師を育成するために、日本病院薬剤師会により平成17年度から感染制御専門薬剤師認定制度が設けられています。本年度、本院薬剤部の西村信弘准教授・副薬剤部長が本制度の感染制御専門

薬剤師として認定されました。本院感染対策チームのシニアメンバーとして、院内感染対策の充実に向けて今後のさらなる活躍が期待されます。



感染制御専門薬剤師
西村信弘 准教授・副薬剤部長

地域医療支援学講座の設置にあたって

地域医療支援学講座 谷口 栄作

地域医療支援学講座は、平成22年4月に県の寄付により開設されました。当講座は、地域医療教育学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして県や市町村、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませながら、医師としてのキャリアアップと県内の医療機関で安心して働ける環境づくりを支援する」ことを目的としております。そしてその実践の中でそれぞれの地域の医療システムのあるべき姿、またそこに至るプロセスについて研究したいと考えています。

この役割を果たすために、学生教育として、学生講義をはじめ、地域医療実習支援、さらには地域と大学との交流を深めるための地域医療交流サロン等の取り組みをします。また医師のキャリア支援として、キャリアパスの作成支援とパスに基づく様々な調整、シミュレーション教育、病院前救護教育、さらに島根大

学医学部卒業生の支援までできるといいなと考えています。一方で、県内のそれぞれの地域の医療提供体制の確立に向けての支援等にも取り組んでいきます。

まだまだ走り出したところですが、徐々に取り組みを充実していきたいと考えています。今後様々なご協力をいただきますとともに、どしどし御意見を聞かせてください。



緊急カードをつきました。また10床になりました。

外来化学療法室 若槻 律子、鈴宮 淳司

がん薬物療法の種類は増え、それに伴い治療成績は毎年向上しています。当院の外来化学療法室で実施しているレジメンの種類も増加傾向にあります。特に切除不能・転移性大腸がんに対する標準的抗がん薬治療は、2005年に新しい局面を迎え、FOLFOX療法（5-FU＋ロイコボリン＋オキサリプラチン）やFOLFIRI療法（5-FU＋ロイコボリン＋イリノテカン）が登場し、治療成績がよくなりました。この治療法は、中心静脈にカテーテルを挿入し、ポート増設を行うことが必要で、約46時間携帯型ポンプに入った抗がん薬を自宅で管理することが必要です。また、FOLFOX療法に使用されるオキサリプラチンの過敏症に対する情報提供も重要です。患者さんが安心して治療が受けられるよう、どのような症状が出現するのか、緊急で連絡していただくタイミングや方法について十分ご指導する必要があります。

そこで外来化学療法室では、ポートを使用して治療を受けておられる方に「緊急カード」(図1)を作成し、患者さんに緊急時に役立てていただくようお願いしております。さらに抗がん薬治療を外来で受けられるすべての患者さんにお薬ノートなどの活用により、医療者とともにご自身の抗がん薬治療の管理にも参加していただくことが安全管理の面からも大切なことと考えております。緊急時のバックアップ体制の確立とともに今後の外来治療における課題として対策を進めてまいりたいと考えております。

工事期間中はご迷惑をおかけいたしました。図2のように10床の外来化学療法室になりました。今後も安全で安楽な外来化学療法に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

私は皮下埋め込み式ポートを使用し、治療をしています

氏名 _____ 生年月日 _____

住所 _____ TEL _____

ポート埋め込み日 / / メーカー ()

カテーテルの種類 (グロジョン・オープン)

島根大学医学部附属病院

診療科 _____ 担当医師 _____

以下のことがある場合には、必ず電話連絡して下さい

- ・ 38℃以上の発熱があるとき
- ・ 吐き気・嘔吐・下痢などで水分がほとんど取れないとき
- ・ 薬液が減らず、注入されないとき
- ・ 針が抜けたとき
- ・ チューブが途中ではずれたとき
- ・ 刺入部および刺入部周囲の痛みやはれがあるとき
- ・ ポンプが割れたとき
- ・ その他、気になる事があるとき

連絡先 平日 8:30~17:15 外科外来 0853-20-2384
夜間、土日祝祭日 救急部 0853-20-2000

図 1 緊急カード



図 2 増床分



外来化学療法室スタッフ

新たな初期卒後臨床研修プログラム

卒後臨床研修センター 山口 修平

初期研修医の獲得を目指して、現在いくつかの取り組みを行っています。その一つとして研修プログラムのリニューアルがあります。これまで島根大学での研修プログラムは大きく3つのコースに分かれ、さらにそれぞれのコースの中でたすき掛け協力病院毎に定員を定めて募集していました。平成23年度のプログラムでの主な変更点は2つです。

まず大学病院1年間、その後協力病院1年のコース（Bコース）において、協力病院の選択を全てフリーとしました。これにより研修医自身の希望を最優先とし、マッチングによる不安を解消いたしました。2つ目の変更点は、新たに総合医育成特別コースを作りました（図を参照）。ここでは1年目は大学病院で研修を行い、2年目に救急を含めたプライマリーケアを充実させた幅広い研修が出来るように、広島県立病院そして水戸協同病院あるいは亀田ファミリークリニック館山と

いった実績のある県外施設での研修を行います。その後、県内の総合病院で内科系総合医あるいは外科系総合医をめざした研修を行うものです。いずれも地域の中核病院で症例数も豊富です。

平成24年度からは地域枠推薦を含めた県内出身の卒業生が増加する事が確実です。彼らが充実した研修生活を送れるために、また島根大学病院を基盤とする臨床医の増加をめざす上で、今回の初期研修プログラムのリニューアルが大きく貢献することを期待しています。

【2年目】

地域医療:

水戸協同病院、亀田ファミリークリニック館山で研修

選択科※1:

大学病院で研修

救急:

県立広島病院で研修

選択科※2:

内科系総合医希望

独立行政法人国立病院機構浜田医療センターで研修

公立邑智病院(仁寿会加藤病院 含む)で研修

外科系総合医希望

公立雲南総合病院で研修

(10)プログラムG総合医育成特別コース (定員 8人(4人/年))

大学病院において1年目の研修を行い、県外及び県内の指定する病院において2年目の研修を行う。

1年目	*	内科(6)	救急(1)	選択必修科(3)	選択科(2)
2年目		地域(3)	選択科※1(1)	救急(2)	選択科※2(6)

*:オリエンテーション

(卒後臨床研修センターホームページより)

ハイチ大地震災害救助活動に対する感謝状の贈呈について

総務課

本年1月12日（日本時間13日）に中米のハイチで発生したM7.0の大地震では、死者は22万人以上、負傷者は31万人以上に上りました。

この大地震災害に対して、本院から、国際緊急援助隊（JDR）医療チームの副団長として派遣し、現地で全力を尽くして救援活動を行い国際協力の推進に寄与した救急部 畑 倫明医師に対し、また、国際協力事業に深い理解を持って医師を派遣した本院の小林病院長に対し、独立行政法人国際協力機構 緒方貞子 理事長から感謝状が贈呈された。



大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成 (大学病院連携型高度医療人養成推進事業)4大学プログラムについて

4大学プログラムコーディネータ・病院医学教育センター 廣瀬 昌博

大学病院連携型高度医療人養成推進事業は、平成22年度から「大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成」事業に改称されました。本事業のうち、「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム(4大学)」では、一地域医療と高度先進医療の融合による新たな教育システムをスローガンに、大学病院ばかりでなく各大学の地域関連病院とも連携し、都会と地方、大学と関連病院を順次循環することで、医療技術の習得だけでなく、医療の本質や地域医療の重要性を肌で感じることで、人間的にも成長することが可能です。本プログラムにおいては、4大学で参加診療科は87を数え、175ものコースを用意し、卒業者総数の5割以上の参加を目標にしています。

ところで、本プログラムでは、平成20年、21年度で23名(うち、島根大学は12名)がすでに大学病院間の交流に参加し、本年度は島根大学5名、神戸大学3名の交流が決まっています。この数は、一見少ないようにも思えますが、全国では高い評価を得ており、地理的に不利な状況下で日常的に多忙を極めるなかでも各診療科のご理解、ご協力を戴いた結果であり、本事業を

支援するキャリア形成支援部門の職員全員が感謝しているところです。また、実際に交流に参加した医師からは、いずれも1) 自大学のみでは経験できない貴重な症例や豊富な症例を経験することができた、2) 他大学のスタッフと人的交流ができた、3) 今後の医師としてのキャリア形成にとっても役立った、などのポジティブな意見が聞かれ、本事業の意義深さが理解されます。

しかしながら、大学病院間交流の医師が増加しても、地域の関連病院に勤務する医師が増加しなければ本事業も意味がありませんし、関連病院や地域市町村からも本プログラムへの理解や協力を得ることができません。キャリア形成支援部門もこの点を考慮し本事業の活動を推進していますが、島根大学医学部附属病院が学術的にも臨床的にも実力ある人材を育て、魅力ある研究および研修体制を整備することで、国内はもとより国際的にも認知されることが不可欠です。

各診療科の先生方をはじめ、病院職員のみならず方には、今後ともご理解、ご協力のほど、重ねてお願いいたします。

いよいよ褥瘡対策リンクナース会が活動を開始します

褥瘡対策リンクナース会 褥瘡対策委員
看護部 神田 真理子

今年度より看護部に褥瘡対策リンクナース会が発足しました。リンクナースは院内褥瘡対策委員会と連携を図り、各部署で褥瘡対策・予防の推進者としての活動を行います。

かつて「褥瘡をつくることは看護の恥」といわれた時代もあり、看護師は褥瘡のケアに力を注いできました。しかし、効果的な褥瘡対策・予防には、看護師の力量は勿論のこと、科学的根拠に基づいた管理とあらゆる医療従事者が協働した取り組みが必要です。また、診療報酬改定では、平成18年度から褥瘡ハイリスク患者ケア加算が入院基本料に加わり、専従の認定看護師を配置した重点的な褥瘡ケアが評価されることになりました。

私たち褥瘡対策リンクナース会は、『褥瘡対策に関する知識・技術の習得』『院内の褥瘡発生率低下・褥瘡治癒率向上』『褥瘡ハイリスク患者ケア加算による手厚い褥瘡ケアの提供』を目指します。「皮膚・排

泄ケア」認定看護師の清水美穂子さんも新しく迎え、共に取り組んでいきますので、院内の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



リンクナース会メンバー

内視鏡洗浄履歴について

光学医療診療部 天野 祐二

光学医療診療部において稼働しております内視鏡洗浄自動履歴システムについてご紹介致します。当院における内視鏡検査及び治療の症例数は、増加の一途をたどっており、我が光学医療診療部が設立された2002年度からみるとほぼ1.5倍に増加しております(表1)。検査を受けられる方の健診の重要性に対する意識の高まり、高齢化社会による内視鏡手術症例の増加など、その原因として種々の因子の関与が考えられます。このような環境の中、私たちスタッフに強く求められることの一つは「安全」であります。特に内視鏡診療における医療安全のなかには、内視鏡洗浄・消毒という特殊なものがあります。患者さんが安心して検査・治療を受けられるためには、質の高い内視鏡洗浄・消毒というものが不可欠であります。欧米では、質が高く管理の行き届いた内視鏡洗浄というものは、洗浄の履歴を記録してこそ成り立つものであると考えられており、法律化にも至っております。しかしながら、本邦ではやっと導入が始まろうとしている段階であります。私どもは、昨年1月よりいち早く内視鏡洗浄履歴システム(図1)を取り入れ、日常内視鏡診療の場で活用しております。どの内視鏡がいつ誰の手で、誰に施行され、誰によって洗浄・保管されたかをきちんと記録に留めるものであります。内視鏡洗浄に関するトラブルの防止を第一の目的とし、万が一の院内感染発生時には、速やかな原因解決をするシステムであります。

地域を牽引する立場にある大学病院の使命の一つとして、当院でこの内視鏡洗浄履歴を取り入れていることが話題となり、最近NEWS SCOPEなる雑誌から取材を受け、その記事が掲載されました(図2)。今後、さらに複雑化する内視鏡診療に向かって、私共はより質の良い医療の提供の一環として、「安全」に対してきちんと向き合っており邁進したいと考えております。

表1 光学医療診療部における検査・治療症例数の推移

	上部内視鏡	下部内視鏡	胆道・膵管	腹部超音波
2002年	2590 (133)	942 (343)	122 (102)	2827 (221)
2003年	2994 (145)	1054 (326)	133 (111)	3174 (216)
2004年	3115 (151)	1213 (314)	157 (121)	3510 (230)
2005年	3201 (163)	1137 (321)	142 (108)	3572 (203)
2006年	3503 (172)	1322 (356)	148 (114)	3637 (223)
2007年	3711 (265)	1393 (388)	136 (104)	3813 (248)
2008年	3753 (303)	1510 (365)	176 (142)	4027 (278)
2009年	3805 (293)	1551 (324)	207 (133)	3827 (254)

() : 治療数

図1



図2 NEWS SCOPE 掲載記事

看護部教育専任スタッフルームの紹介

看護部 田中 真美

平成22年4月より、保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部が改正され、卒後臨床研修が努力義務化に位置づけられました。当院でも教育専任スタッフルームを設け、4人のスタッフで活動することになりました。教育専任看護師として、私たちは、新卒看護師を中心に就職前の看護技術演習から関わっています。就職後も新卒看護師が配属された部署をラウンドして一緒に看護ケアを行い、患者さんに安全で確実な看護技術が提供できるようにサポートしています。臨床現場の看護師たちと連携をしながらメンタルサポートにも取り組んでいます。また、病院内の卒後教育は、クリニカルラダーに基づき、創造性、面白さ、大胆性をモットーに企画、運営し、一人ひとりの看護職が自分らしくキャリアアップできる教育体制をとっています。当院のクリニカルスキルアップセンターと連携し、シミュレーターを活用した演習や、卒後研修医や看護師、薬剤師等の合同研修も取り入れています。4月に行った合同研修は、同期に入職した仲間と共に、臨床現場を再現したチームプレーの第一歩としてコミュニケーションの場としても有意義でした。

4月から新しくスタートした部門ですので、皆様のご支援、ご指導を頂きながら最善を尽くしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



ワークライフバランス支援室の発足について

ワークライフバランス支援室(放射線治療科) 内田 伸恵

このたび島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室が開設されました。前身の女性スタッフ支援室は、平成19年度文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人GP)」に、本学の「新しいキャリア継続モデル事業-しなやかな女性医療職をめざして」が採択されたのを機に開室され、様々な女性医療職支援事業を推進して参りました。3年間の事業期間が終了し当初の目的を達成したのを機にワークライフバランス支援室として再出発したものです。

医療の現場は従来長時間労働が当たり前とされ、仕事と育児や介護の両立が難しい、地域活動に参加できないなど、仕事と生活の調和すなわちワークライフバランスがとりにくい職場であるといわれています。さらに、近年の医療従事者不足で、就業環境の悪化が危惧されています。しかしながら、患者さんの心身の健康を回復させるための職場、将来の医療を担う人を育てる職場であるからこそ、そこで働く人が満足できる環境である必要があります。当院は全国医学部附属

病院中、唯一の「女性医師・すべての医療従事者にやさしい病院」として認証を受けている病院でもあります。女性スタッフ支援室の実績や経験を活かし、ワークライフバランス支援室は全ての職員が仕事と生活の調和のとれた働き方ができる医学部・附属病院をめざして、共に考え活動していきます。

女性スタッフ支援室で実施していた、情報発信やキャリア教育、相談窓口、病児病後児保育室「ニコニコうさぎ」の運営などは引き続きワークライフバランス支援室でおこなってまいります。今後、現場・職員のニーズに合致した新たな取組も開始したいと検討中です。よろしくご支援・ご指導のほどお願い申し上げます。



クリティカルパスシリーズ～ガイドラインに基づいた静脈血栓塞栓症予防策と泌尿器科経尿道的手術の連動クリティカルパスの運用について～

泌尿器科 平岡 毅郎、井川 幹夫

静脈血栓塞栓症（VTE）は上肢や下肢の静脈に血栓が生じる病態で、この血栓が血流によって肺に移動し肺動脈を閉塞させると急激な呼吸困難や循環不全が生じ最悪死亡に至る非常に重篤な疾患です。従って、周術期合併症の中で最も注意を払うべき病態の一つと考えられます。静脈血栓塞栓症発症の危険因子として、高齢、肥満、悪性疾患、長時間の手術などがあげられます。これら危険因子を術前に適切に評価し、リスクにあった予防策を講じることで静脈血栓塞栓症の発症を未然に防ぐことが可能と考えられ、肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドラインが2004年に策定されました。

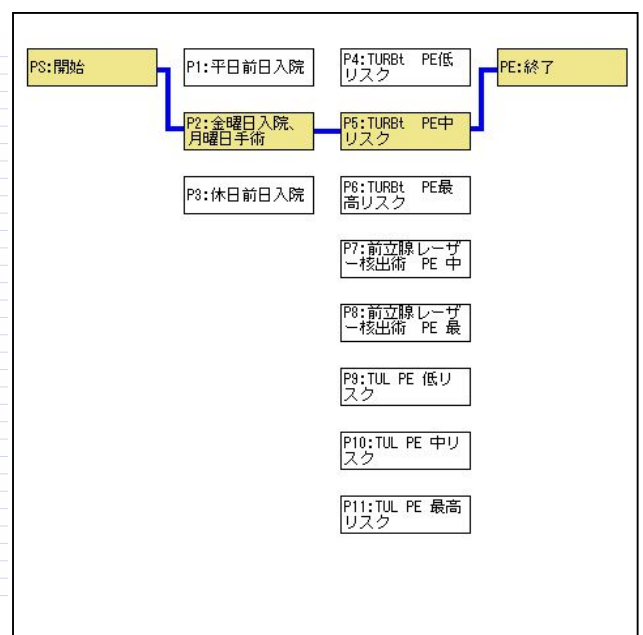
今回、このガイドラインにそったリスク評価と予防法の選択を、クリティカルパスで同時に運用すること

で、効率的かつ安全に施行可能な泌尿器科経尿道的手術クリティカルパスを作成しました。具体的な方法としては、はじめに、年齢、危険因子、術式から低リスク、中リスク、高リスク、最高リスクまでの4段階に発症リスクを分類します（図1）。次に、泌尿器科経尿道的手術組み合わせパスから入院日、術式とリスク分類を選択し、クリティカルパスを作成するという流れで行います（図2）。この連動パスにより泌尿器科手術の中で最多の経尿道的手術において、静脈血栓塞栓症の予防が効果的に図れるものと期待しています。今後は症例を蓄積することでリスク評価の妥当性を再検討し、採用したガイドラインが即座に参照できるシステムの開発、さらには泌尿器科開腹手術にもこの連動パスを応用していく予定です。

図1 VTEリスク評価表

VTEリスク評価表	
年齢	71歳
VTEの危険因子	術式
<input checked="" type="checkbox"/> 肥満	<input type="checkbox"/> 副腎腫瘍摘出術
<input type="checkbox"/> エストロゲン治療	<input type="checkbox"/> 副腎悪性腫瘍手術
<input type="checkbox"/> 下肢静脈瘤	<input type="checkbox"/> PNL
<input type="checkbox"/> 高齢	<input type="checkbox"/> TUL
<input type="checkbox"/> 長期臥床	<input type="checkbox"/> 単純腎摘除術
<input type="checkbox"/> うっ血性心不全	<input type="checkbox"/> 腎尿管悪性腫瘍手術
<input type="checkbox"/> 呼吸不全	<input type="checkbox"/> 生体腎移植術
<input type="checkbox"/> 悪性疾患の合併	<input type="checkbox"/> 死体腎移植術
<input type="checkbox"/> 中心静脈カテーテル留置	<input type="checkbox"/> 尿管尿管吻合術
<input type="checkbox"/> 癌化学療法	<input type="checkbox"/> 尿管膀胱吻合術
<input type="checkbox"/> 重症感染症	<input type="checkbox"/> 膀胱破裂閉鎖術
<input type="checkbox"/> 静脈血栓塞栓症の既往	<input type="checkbox"/> 膀胱切石術
<input type="checkbox"/> 血栓性素因	<input type="checkbox"/> TUVL
<input type="checkbox"/> 下肢麻痺	<input type="checkbox"/> 膀胱憩室切除術
<input type="checkbox"/> 下肢キプス包帯固定	<input type="checkbox"/> 膀胱単純摘出術+尿路変更術
※血栓性素因:アンチロビン欠損症、プロテインC欠損症、プロテインS欠損症、抗リン脂質抗体症候群など	<input type="checkbox"/> 膀胱全摘(悪性)+尿路変更術
	<input checked="" type="checkbox"/> TUR-Bt
	<input type="checkbox"/> 外尿道腫瘍切除術
	<input type="checkbox"/> 尿道悪性腫瘍手術
	<input type="checkbox"/> 尿道形成手術
	<input type="checkbox"/> 尿道断手術
	<input type="checkbox"/> 尿失禁手術
この患者の肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症の発症リスクは 中リスク です	

図2 組み合わせ選択



日本医療マネジメント学会島根支部第9回学術集会を大社町 で開催します(ご案内と参加の募集)

日本医療マネジメント学会島根支部
第9回学術集会 実行委員長 廣瀬 昌博

この度、日本医療マネジメント学会島根支部第9回学術集会を本院が担当し、下記の日程で開催することになりました。

今回は、「地域医療における質の向上と標準化—臨床指標の有用性とその活用—」をテーマとしましたが、「臨床指標」という専門用語をより身近に感じそれを日常的な病院活動で有効に活用していただくことを考えています。例えば、MRSAの発生率も「臨床指標」となりえます。これが大きいと感染対策が十分でなく、小さいと感染対策が十分で職員の感染への意識が高いと考えられます。このように、日常の病院活動で利用される「数値」を「臨床指標」として、あらためて見直し、その「臨床指標」に関するエビデンスを基にさらなる病院活動の展開により、「島根県における地域医療の質の向上と標準化」に資することができるような学会に致したいと考えております。そのため、特別講演では池田俊也先生に医師のお立場から、また、ランチョンセミナー(予定)では、小林美亜先生に看護師のお立場から、今日にも役立つ臨床指標やクリニカルパスなどのご講演をいただく予定にしております。

以上のように、日常の病院マネジメント活動に役立つような企画をたくさん用意しておりますので、たくさんの医療従事者のみなさまの参加をお待ちしております。

なお、参加費は無料とする予定ですので、平成22年7月20日(火)までに下記担当へ申込してください。

日時 平成22年9月25日(土) 10:00~16:00
場所 大社文化プレイスうらら館
出雲市大社町杵築南1338-9



日本医療マネジメント学会島根支部第9回学術集会事務局
島根大学医学部附属病院医療サービス課

担当 医療支援室 土江 0853-20-2068
医療安全支援室 渡部 0853-20-2065
FAX 0853-20-2063

E-mail renkei@med.shimane-u.ac.jp

プログラム

9:30 ~	受付開始
10:00 ~	開会挨拶
10:05 ~ 11:30	特別講演
11:40 ~ 12:30	ポスター発表
12:30 ~ 13:20	昼食・休憩・ポスター展示 役員会
12:30 ~ 13:20	ランチョンセミナー(予定)
13:20 ~ 14:35	シンポジウム
14:40 ~ 15:50	一般講演
15:50 ~	閉会挨拶

*ポスター発表

- ・募集した演題の中から一部を選出し、口演をお願いいたします。
- ・「ポスター申込み」として、①演題名、②氏名、③施設名を記載し、抄録の字数は800字以内(タイトル、演者名を除く)とし、7月20日(火)までにメールで送付してください。
- ・ポスター展示のスペースは、縦180cm×横120cmです。
- ・ご了解いただいた上で、PDFファイルに変換し、CD-ROMにより学会後に参加医療機関に各1枚お配りする予定です。その他への配布は予定しておりません。

患者支援の取り組みシリーズー前立腺いやしの会ー

泌尿器科 本田 聡、井川 幹夫

泌尿器科では以前より患者支援の取り組みの一環として、患者会の設立に関わってきました。例えば膀胱がんに対して膀胱全摘除術を施行する場合、同時に尿路変向を行うため、その自己管理について様々な心配事や悩みなどが生じます。こういったことについて患者さん同士がお互いに相談し合える場を作ることは非常に有益であり、当科ではこれまでに「あじさい会(回腸導管患者の会)」、「すずらん会(新膀胱患者の会)」を立ち上げてきました。

「前立腺いやしの会」は、前立腺がんの増加と共に当科での根治的手術も累計428件と年々増えていく中で、2003年5月に前立腺がんの根治的手術を受けられた方々を対象に設立されました。術後に特有な合併症として、尿失禁や勃起障害があり、いずれも日常の場では相談し難い問題です。こういった合併症に対する診療を行う中で、私どもから数人の患者さんに患者会の設立についてお話したところ賛同が得られ、会員の健康と会員相互の親睦を図り、地域における前立腺がんの早期発見、早期治療の推進を支援することを目的に掲げ、現在に至り、会員総数は約200名に上っています。

「前立腺いやしの会」の年間活動は、総会、親睦会、年2回の勉強会、会報の発行(図1)が主なもので、開催等が近づいてきますと役員の方々は準備で忙しくなります。医療者側は顧問としてこの会を手伝うようにしており、当科医師だけでなく、外来および病

棟の看護師にも加わっていただき、様々な角度でケアしていけるようにしています。設立当初は医療者側が主導することが多い状態でしたが、現在では役員の方々を中心に会が運営されています。去る6月6日にも第8回総会(図2)、勉強会、親睦会(図3)が開催され、会員の方々からは、悩みごとの相談や近況報告はもちろんのこと、地域レベルでの啓発活動推進の提案といった積極的な発言もあり、大いに盛り上がりました。会員の中にはすでに公民館活動のような形で、自らの経験を生かし、会報などを利用して前立腺がんの早期発見、早期治療の啓発に努めている方もいらっしゃいます。総会に出席できない会員に対しても、会報や質問表を郵送するなどして、できるだけ会員の生の声に耳を傾けていただけるよう取り組んでおります。また、今回の総会では会員の拡大についても議事として話し合わせ、今後は密封小線源療法を受けられた方々もこの会に参加していただくことになり、さらに会員数が増えていくことが予想されます。

こういった「患者参加型の会」は、インターネットで過剰となっている情報社会の中で、我々が直接医療に関する情報を正しく伝えることができ、患者さんと医療者の良好な関係を保ち、患者間のネットワークの構築にも役立つことから、今後も積極的に関わっていこうと考えています。



図1 前立腺いやしの会会報



図2 総会



図3 ラパンでの親睦会

日本臨床衛生検査技師会の最優秀論文賞を受賞

検査部 松田 親史

社団法人日本臨床衛生検査技師会主催の第59回医学検査学会において、平成21年の最優秀論文賞を戴きました。本論文のタイトルは、「変異LHβ鎖症例における化学発光免疫測定試薬の反応性」です。論文の内容は、2種類の免疫化学発光試薬において測定値の乖離を認めたことから、この原因解析を行い、その原因が今まで報告されていないLHβ鎖構造変異であることを特定したという内容です。

検査室には日々多くの患者さんの検体が搬入されてきます。普段何気なく見逃してしまいそうなデータの中にもこのような異常反応が極くまれにあり、このような異常反応の報告の積み重ねが試薬の改良へとつながるものと信じて地道に研究してきました。これからも臨床側へ正確なデータがお返しできるように、異常を発見する感性とその原因を追求する探究心を備えた一臨床検査技師として、また島根大学医学部附属病院の一職員としてその使命を果たすべく日々努力して

いきたいと思っています。

最後になりましたが本受賞に際しては、野津和巳先生（大学前のつ内科クリニック院長）、長井検査部長、柴田技師長、狩野クリニカルスキルアップセンター長はじめ多くの方に支えていただいたおかげだと思っています。この場をお借りして深謝いたします。



日本臨床検査技師会会長との記念写真

平成22年度全国医学部長・病院長会議中国・四国ブロック会議を開催

総務課

平成22年度全国医学部長・病院長会議中国・四国ブロック会議が4月30日に本学を当番校として松江市内のホテルで開催され、中国・四国地区の10校の医学部長（学長）、病院長が出席しました。

全体会議では、国家試験の抜本的改革といった早急に取り組むべき課題を協議に掲げ、共用試験のCBTを正式な国家試験として基本的な知識を問い、最終的な医師国家試験は臨床実習に基づいた実践的なものにするなどの改革により卒前臨床教育を充実させる必要がある等活発な意見交換が行われました。「医学科6年生の臨床実習に則した医師国家試験の改革」及び「医療系大学間共用試験実施評価機構への要望」を、全国医学部長・病院長会議へ議題として提出し、文部科学省と厚生労働省に働きかけることになりました。

引き続き開催された学部長等会議では、「医学部定員の増加に伴う地方大学への入学者の学力の担保につ

いて」、病院長会議では「中四国国立大学病院における医薬品等の共同交渉の推進について」と題して活発な意見交換及び情報交換が行われました。



第4回島根大学医学部附属病院医療連携会議を開催

地域医療連携センター

6月28日（月）18時30分から本学大会議室において、「第4回島根大学医学部附属病院医療連携会議」を開催しました。

これは病院間どうしの連携を推進している本院の地域医療連携センターが主催し平成18年度から行っているもので、本院と密接な関係にある出雲圏域の7病院から病院長、医師、看護師、MSW、事務職員が集まり、施設間の円滑な連携のための協議を行いました。

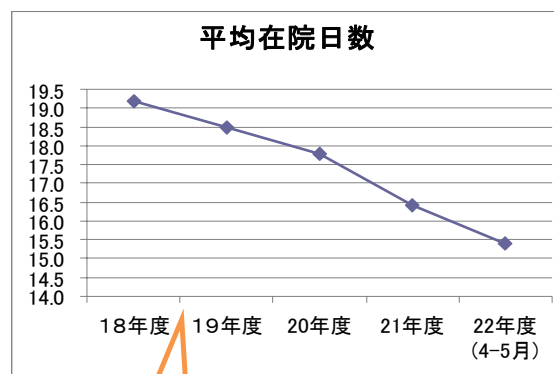
主な内容は次のとおりです。

1. 病病連携の強化について

- 1) 各病院の病病連携の実情と大学病院への要望について
- 2) 脳卒中地域連携パスによる患者紹介について
- 3) 平成22年度診療報酬新設事項「救急搬送患者地域連携紹介（受入）加算」について
- 4) 転院後の経過連絡の方法について
- 5) 平成21年度島根大学病院の退院支援について

この医療連携会議ではこれまで転院時に発生する様々な施設間の問題について検討を行ってきました。この効果として大学病院からの転院や連携病院からの

入院等がより円滑になってきており、本院における平均在院日数が下図に示すように大幅に短縮した理由の一つにあげることができます。今後も当センターは、医療連携の推進に努力して参りますので、関係各位のご協力をお願いいたします。



第1回医療連携
会議開催

医学部キャンパスにおいて防災訓練を実施

施設企画課（出雲）

本学医学部キャンパスにおいて、5月24日（月）の午後、防災訓練を実施しました。

訓練は、午後3時に震度6の地震が発生したとの想定で本番さながらに行いました。本震終息後、直ちに自衛消防組織並びに災害対策本部を設置の上、地震情報の収集、附属病院を含め医学部構内各所の被災状況等の調査、指示、現場対応、報告等の訓練を実施しました。講義棟においては負傷者を想定し、救出、応急救護、救急車両による救急部への搬送、救急措置の訓練を実施しました。また、基礎研究棟ではエレベータ閉じ込め者を想定し、閉じ込め者への対応等についての訓練を実施しました。

今回の訓練は、地震時の初動行動等自衛消防組織の必要性について認識を新たにするとともに、防災の意識の高揚に大いに役立つものとなりました。



救急部での負傷状況確認

ボランティア活動について

病氣と闘っている子供たちにプレゼント ～ボランティアによる「こいのぼり」と「花火」～

医療サービス課

今年のゴールデンウィークの5月1日から5日までの間、建設中の新病棟の上にこいのぼり55匹が揚げられ、五月晴れの空を力強く泳ぎ、重い病氣などで連休中も病院で過ごす子どもたちを喜ばせました。この「こいのぼり」は、多々納恒宏さん(出雲市大社町)が病院ボランティア活動として揚げたもので、準備には賛同した建設会社の作業員の方々も、ボランティアで当たられました。

また、「こどもの日」には、午後8時から約10分間、近くの河川敷から「5月5日」にちなんで55発の花火が打ち上げられました。夜空を彩るニコちゃんマークやハート形の花火、最後の仕掛け花火に子供たちは大喜びで、小児科病棟は笑顔と歓声に包まれました。

多々納さんは、毎年、5月5日の「こどもの日」に小児病棟の窓から見えるよう、55発の花火を近くの河川敷で打ち上げており、大学では昨年12月、病院長から感謝状を贈呈しています。

なお、この模様は、後日NHK松江放送局が島根県向け総合テレビジョンで放送している地域情報番組「しまねっと845」でも放送されました。



建設中の新病棟の上で泳ぐ55匹のこいのぼり

環境整備のボランティア

施設整備課

1. 塩冶須山グループボランティア活動

平成22年4月から6月の第2土曜日の午前9時から10時まで、塩冶町老人クラブ(百寿会)の須山林吉様外10名のボランティアグループのみなさんにより、正門植え込み周囲及び臨床研究棟前の中庭の草刈り等による環境整備を行っていただきました。

塩冶須山グループさんは、今後11月まで毎月第2土曜日に構内においてボランティア活動を行うよう計画されております



病院入り口を環境整備する塩冶須山グループの皆さん

2. 天理教全教一斉ひのきしんデーのボランティア活動

天理教島根教区のみなさんにより、平成22年4月29日(木)、ボランティアで医学部慰霊碑及び病院南側遊歩道並びに病院正面玄関周囲を草刈り等の環境整備を行っていただきました。

当日は風が強く時折小雨が降るあいにくの空模様でしたが、約250名の方が午前9時から正午まで3時間にわたり広範囲に環境整備に汗を流していただきました。天理教島根教区の方々には、昭和58年から毎年ボランティアで環境整備を行っていただいております。本学からも施設整備課長以下担当が一緒に作業を行い、地域に根ざした病院として地域住民と共に歩んでいくことが大切であることをあらためて学んだ一日となりました。



病院玄関前を環境整備する天理教島根教区の皆さん

ボランティアコンサート

医療サービス課

4月28日 井谷義弘さんのクラリネット演奏
「ナツメロからジャズまで」



5月11日 海阿虎さん(島根大学生物資源科学
研究科)の馬頭琴の演奏



6月29日 小田泰子さん、林宏美さん、松田美紀さんによる「くつろぎコンサート」

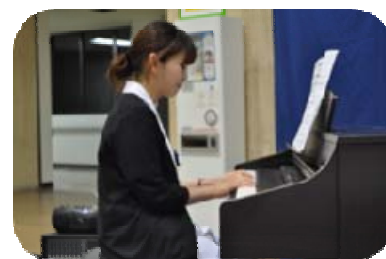


その他のイベントの報告

看護の日のイベント「看護師による小さな音楽会」を開催

看護部

今年度初めて「看護の日」の週間催しとして、5月14日に“看護師による小さな音楽会”を開催しました。日頃、看護職として仕事をしている顔とはまた違う一面を、フルート・ピアノ・ミュージックベルの演奏やアカペラ等で披露しました。短時間でしたが、がんサロン会の皆さんにも参加していただき、会場の患者さんや教職員の方と一緒に「看護の心をみんなの心に」を共有しました。



「初夏の落語と寄席ばやし」公演会を開催

医療サービス課

5月28日（金）の午後7時より病院1階待合ホールで「初夏の落語と寄席ばやし」と題した笑いの公演会を開催しました。

小林病院長の発案で始めたプロの噺家や芸人を招いての演芸会は今回で4回目となりました。笑うことによって免疫力を高める効果があるといわれていますが、本院では院内に「笑い療法士」（癒しの環境研究会認定）の資格を取得した医師や看護師がおり、患者さんへの医療の提供と併せ、癒しの環境を提供するために様々な活動を行っております。こうした患者さんの日常的側面にもサービスを提供することも本院では重要なことと考えています。

今年は第1回から出演している柳亭左龍さんの落語と出囃子の三味線奏者として活躍中の恩田えりさんに公演してもらいました。入院患者さんやご家族、お見舞いの方、職員など110名ほどがプロの芸に拍手喝采し、笑いの輪も広がり、充分満足いただけた初夏の催しでした。



病院運営委員会の報告

平22年4月21日 ○特殊診療施設の副センター長候補者を承認しました。

施設名	所属・職	氏名	任期
地域医療連携センター	内科（神経内科）・助教	山口拓也	平22.4.1～平23.3.31
クリニカルスキルアップセンター	看護部・副部長（教育担当）	八塔累子	平22.4.1～平23.3.31

平22年5月19日 ○特殊診療施設の副センター長候補者を承認しました。

施設名	所属・職	氏名	任期
地域医療連携センター	看護部・副部長（業務担当）	日原千恵	平22.5.19～平23.3.31



我が家のペット

歯科口腔外科
菊地萌さん提供

コロン(4歳 ♀)うちのコロンはとても人懐っこく、家族の手をべろべろなめたり、足の周りをくるくる回ったりしています。私は去年から一人暮らしで離れて暮らしているのですが、たまに帰ったときに会えるのがすごく楽しみです。

★癒しのコーナーとして「我が家のペット」を紹介しています。かわいいペットの写真と簡単なコメントを添えて編集委員会へお寄せください。

研修会・講演会・学会等の お知らせ

名称	日時	場所	対象者	演題等	講師名	主催他
第14回リエゾン精神医学30分勉強会～入院患者のメンタルヘルス維持・向上のために～	平成22年7月1日(木) 18:30-19:00	臨床小講堂	院内外治療スタッフ・学生・その他興味のある方	「不穏とせん妄」	精神科神経科・助教 安田 英彰 先生	島根大学医学部精神医学講座
学術講演会	平成22年7月6日(火) 19:00-20:30	臨床小講堂	医療従事者・学生	1、「臨床試験のサンプルサイズ」(仮) 2、「臨床試験のエンドポイント:何がわかるか」(仮)	1、名古屋大学 造血細胞移植情報管理・生物統計学講座 兵理 絵先生 2、名古屋大学 造血細胞移植情報管理・生物統計学講座 准教授 鈴木 律朗 先生	協和発酵キリン 共催:腫瘍センター がんプロフェッショナル養成プラン
平成22年度第1回医療安全のための研修会	平成22年7月6日(火) 17:30-19:00	臨床大講堂	病院職員	「医療事故被害者遺族の立場から医療者に望むこと」	医療の良心を守る市民の会 代表 永井 裕之 氏	医療安全管理委員会
第1回ワークライフバランス支援室講演会	平成22年7月6日(火) 18:00-19:30	看護学科棟N11 講義室	教職員・学生	「女性医師支援」から「全ての医療スタッフのワーク・ライフ・バランス」への進化をめざして	瀧野 敏子 先生	ワークライフバランス支援室
2010 Lecture Series 10 志田和浩 先生 御講演	平成22年7月9日(金) 16:00-17:00	看護学科棟 3階 会議室	職員、大学院生	『CAD/CAM、プロセラ、インプラント』(仮題)	志田 和浩 先生 PREF、NBJ プロセラインストラクター	歯科口腔外科学講座 インプラント治療におけるCAD/CAMの応用に関する講演です。
2010年度 島根大学がん医療従事者研修会	平成22年7月9日(金) 18:00-19:30	臨床小講堂	放射線腫瘍医、放射線診断医、がん治療医、放射線技師、薬剤師、看護師、その他職種・専門を問わず、全てのがん医療に関わる医療従事者	「がん集学的治療における温熱療法の役割」	社会医療法人 共愛会 戸畑共立病院がんセンター長 今田 肇 先生	国立大学法人島根大学 ■共催/がんプロフェッショナル養成プラン～銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム～ ■後援/島根県
整形外科・リハビリテーション部合同初期研修セミナーーベーシックコースプログラムー	平成22年7月13日(火) 19:00-19:20	整形外科医局	学生 前期・後期研修医(希望者は誰でも可)	下肢スポーツ外傷の対応法	熊橋 伸之 先生	
2010年度 島根大学がん医療従事者研修会	平成22年7月16日(金) 19:00-20:30	臨床小講堂	がん医療にかかわる全ての医療従事者	造血幹細胞移植患者のマネージメント:GVHDを中心に	九州大学病院 遺伝子・細胞療法部 准教授 豊嶋 崇徳 先生	国立大学法人島根大学 ■共催/がんプロフェッショナル養成プラン～銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム～ ■後援/島根県
看護教育セミナー	平成22年7月17日(土) 10:00-12:00	看護学科棟4F 第2実習室	附属病院看護職員、看護学科教員、出雲・松江市近隣の看護職	ケアリングを基盤とした看護職の治療的アプローチー看護独自の介入『看護療法』ー	新潟大学医学部保健学科准教授 新潟大学看護開発センター 専門職支援活動代表 渡邊 岸子 先生	平成22年度島根大学重点プロジェクト『基礎-臨床』ー貫教育による大卒看護師のキャリア育成支援プログラムの構築』
2010 Lecture Series 11 外木 守雄 先生 御講演	平成22年7月20日(火) 16:00-17:00	看護学科棟 3階 会議室	職員・大学院生	睡眠時無呼吸医療への歯科の関わり	東京歯科大学オーラル・メディシン・口腔外科学講座 准教授 外木 守雄 先生	歯科口腔外科学講座
第34.35回病態生化学セミナー(夏期集中セミナー)	平成22年7月22日(木) 15:00~	医学部 図書館3階 視聴覚室	大学院生、学生、医員、教官	1.スクレオソームの構造・機能解析;エビジェネティクスの分子機構解明を目指した 2.スクレオソーム形成:その多彩なレシビと料理人たちの協演	1.早稲田大学理工学術院 先進理工学部・研究科 胡桃坂 仁志 先生 2.名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 田上 英明 先生	病態生化学
第6回出雲リハビリテーション研修会	平成22年8月7日(土) 18:00-19:00	臨床小講堂	医師、看護師、学生等(制限なし)	難治性疼痛のリハビリテーション:複合性局所疼痛症候群 CRPS の診断と治療	広島大学病院リハビリテーション科 准教授 木村 浩彰 先生	出雲リハビリテーション研修会
2010年度 島根大学がん医療従事者研修会	平成22年8月7日(土) 16:00-17:30	看護学科棟 2階 N21 講義室	薬剤師、医師、看護師、その他職種・専門を問わず、全てのがん医療に関わる医療従事者	「がん薬物療法における個別化の意義とその現状」	千葉大学医学部附属病院准教授 副薬剤部長 有吉 範高 先生	国立大学法人島根大学 ■共催/島根県病院薬剤師会 島根県薬剤師研修協議会 ■後援/島根県
2010 Lecture Series 13	平成22年8月16日(月) 16:00-17:00	看護学科棟 3階 会議室	医学部学生・大学院生・職員	インプラント手術の偶発症	Prof. Rainer Schmelzeisen Chairman of the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, University Clinic Freiburg, Germany	島根大学医学部歯科口腔外科学講座 http://www.med.shimane-u.ac.jp/oral/seminar125.html
看護教育セミナー	平成22年8月28日(土) 14:00-16:00	看護学科棟 2階 N21 講義室	看護学科大学院生・教員、附属病院看護部職員、出雲・松江市周辺病院看護職員	高齢者ケアのベストプラクティスに向けてー転倒予防と看護の視点ー	泉 キヨ子 先生(金沢大学医薬保健研究域保健学系教授)	平成22年度島根大学重点プロジェクト『基礎-臨床』ー貫教育による大卒看護師のキャリア育成支援プログラムの構築』
日本医療マネジメント学会島根支部 第9回学術集会	平成22年9月25日(土) 10:00-16:00	大社文化プレイスうらら館	島根県内の医療従事者	地域医療における質の向上と標準化ー臨床指標の有用性とその活用ー	国際医療福祉大学大学院教授 池田 俊也 先生 国立病院機構本部総合研究センター 診療情報分析部 主任研究員 小林 美亜 先生	医療医療マネジメント学会島根支部第9回学術集会 会長島根大学医学部附属病院長

注) 島根県内で開催されるもの若しくは本院が主催するもので平成22年9月までの予定を掲載しています。

編集委員会からのお願い

★病院ニュースは年4回発行予定です。

各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてもらいたいニュース、PRなどを編集委員会へお寄せください。

担当

医療サービス課 医療支援室(内線2068)

Email: shirousag@med.shimane-u.ac.jp

(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)



新病棟完成!に向けて 看護師・助産師 大募集!!

明るく、ほからかで、看護が好きな私たちと一緒に働きませんか

看護学生奨学金を新設しました。

<概要>

- 貸与対象
 - ・本学看護学科4年次在学学生
 - ・看護師養成施設最終学年在籍学生
- 貸与期間
 - ・貸与を決定した年の10月から3月まで
- 貸与額
 - ・204,000円(6ヶ月分)、無利息(月額34,000円×6月)
- 募集人員
 - ・50名(本学30名、県内外の看護師養成施設20名)
- 返還免除
 - ・学生が、直ちに本院の看護師又は助産師として採用され、引き続き奨学資金貸与期間の3倍の期間(1年6ヶ月)業務に従事したとき
- 奨学金の貸与
 - ・6ヶ月分を一括貸与
- 問い合わせ先
 - ・医学部学務課(本学学生) 0853-20-2088
 - ・医学部総務課(看護師養成施設学生) 0853-20-2021

働きやすい職場を目指した
ライフサポート
があります。

2交代・3交代勤務

認定看護師奨学金制度

学内大学院進学

看護師宿舎(全個室・無料)

カウンセラーによる支援

メンター制度

院内保育所(病児保育有り)

など

インターンシップ

- 平成22年 3月23日(火)・24日(水)
 - 平成22年 8月10日(火)・11日(水)
- ※先輩看護師との交流会もあります。

病院見学・ 病院説明会【随時】

※保護者の方の同伴も可能です。

初任給(正職員)

……短大3卒……

242,000円から

(主要手当を含む。)

